たけうまファンド

設定日	：2011年11月	償還日	：死ぬまで	決算日	：原則、毎月末
収益分配	：ありません	基準価額	：算出対象外	純資産総額	：非公開

※レポートのグラフ、数値等は過去のものであり将来の運用成果等を約束するものではありません。
※レポートでは公開できない数値等が多数存在するため、目盛り等一部の表示を省略させていただいております。

運用実績

※運用開始時の資産を100としたグラフとなっています。
※グラフの歯抜け期間は当ファンド運用担当者のメンタルが死んでいた期間につき運用実績の記録ありません。

＜資産構成比率＞

日本株式	75.3%
海外株式	24.3%
現金（円・$）	0.5%

※比率は対純資産総額比です。

＜純資産総額騰落の要因分析＞

日本株式	-0.8%
海外株式	5.2%
現金（円・$）	-80.5%

※上記の要因分析は当月中の売買を考慮せず（できない）、前月末と当月末の時価総額の差を算出してます。
※上記の要因分析は、実際の純資産総額の変動を正確に説明するものではありません。各市場と当ファンドの運用状況の傾向を知るための参考地としてご覧ください。

＜分配金実績＞

設定来
0円

※永遠のゼロ。成長ないので分配なし。

＜純資産総額の騰落率＞

1ヶ月	3ヶ月	6ヵ月	1年	年初来	設定来
-4.8%	±0.0%	-9.0%	4.9%	4.9%	1513.71%

※証券口座現在の資産残高基準。投資信託、iDeCo、仮想通貨、FX（外貨証拠金取引）は含まず。

株式投資は、値動きのある資産（外国株式は為替変動リスクもあります。）に対し投資をするため、資産残高は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。つらい。

■当資料は、当ファンド運用担当者が運用状況を報告する手段としてブログ等の代替として作成した資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、今後変わる可能性があります。

たけうまファンド　日本株式／海外株式

＜資産構成比率＞

資産	比率
株式	99.5%
現金	0.5%

＜国・地域別組入比率＞

国・地域名	比率
日本	75.3%
アメリカ	24.3%

＜業種別組入比率＞

業種	比率
資本財・サービス	34.87%
一般消費財・サービス	34.61%
情報技術	12.65%
金融	7.79%

＜組入上位10銘柄＞

	銘柄名	通貨	国・地域名	業種	比率
1	オカダアイヨン 6294	日本円	日本	資本財・サービス	20.84%
2	ServiceNow, Inc NOW	米ドル	アメリカ	情報技術	12.65%
3	ウルトラファブリックスHD 4235	日本円	日本	一般消費財・サービス	12.37%
4	Tapestry, Inc. TPR	米ドル	アメリカ	一般消費財・サービス	11.61%
5	マクニカHD 3132	日本円	日本	資本財・サービス	7.85%
6	ヒューリック 3003	日本円	日本	金融	7.79%
7	テイクアンドギブ・ニーズ 4331	日本円	日本	一般消費財・サービス	7.50%
8	シンメンテHD 6086	日本円	日本	資本財・サービス	6.18%
9	ゲオHD 2684	日本円	日本	一般消費財・サービス	3.13%

＜規模別構成比率＞

時価総額	比率
1兆円以上	32.35%
5000億～1兆円未満	1.27%
1000億～5000億円未満	10.47%
1,000億円未満	55.90%

株式投資は、値動きのある資産（外国株式は為替変動リスクもあります。）に対し投資をするため、資産残高は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。つらい。

■当資料は、当ファンド運用担当者が運用状況を報告する手段としてブログ等の代替として作成した資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来にわたってなんら保証するものではありません。

運　用　実　績

12月の当ファンドは1桁半ばの下落となりました。2023年通年でも1桁半ばのプラス程度に終わってしまい、好調な市場の恩恵を受けられず忸怩たる思いです。

12月不調の要因としては先月中に行った出金（翌月から反映させるルール）とウルトラファブリックスの下落が効いています。ウルトラファブリックスは円安恩恵銘柄なので今の円高が嫌気されているのはわかりますが、覚醒したバリュー株よりもよっぽど指標的に安い水準まで売り込まれるのは明らかにやりすぎな感じがして減らすに減らせません。もう出金も終わっているので減らす必要もありませんが。最近のマーケットはなんというか急というか思い込みが激しいというか、決算で確認したことをすぐ忘れてしまうようなところがあります。その点米国株は素直なのでこの違いは市場参加者の性格なんでしょうね。

今年はもうそんなトレードしないと決めていたのに結局ガチャガチャとトレードしてしまいました。来年こそは無駄なトレードはしないようにしたいものです。一時は大きく利益の出た先物は全損してマイナス、為替の利益と合わせてトントンで終わり。信用口座の売買もマイナスで終わってるので本当に…

マーケットの監視についても昨年よりも見ていたつもりなのにバリュー株や造船、半導体株の動きは結構動いたあとに知っているのでもう無理なんでしょうね。監視リストを作っても結局全然見ることがないので意味がないという…。つくづく本当にどうしようもない。

今年大きく取れた人たちはそのバッファを持って来年にのぞめますが今年儲かってないとつらいところです。どうやら過去の傾向では実際に利下げが開始されると株価は下がるようで。それが3月なのかもっと早いのか遅いのかはわかりませんが。債券買ってれば手堅いのかもしれませんがデュレーション10年後半でも利下げ4回きてる間に為替が円高に振れたら意味ないし…いやでも20％も円高になったら現在140円として112円だしそこまで円高にならないか…？10％飛んで125円程度をターゲットにするなら5％のコスト払ってヘッジしたほうが得だし、そもそも新NISAで年間5兆円規模以上の円売りドル買い需要があるようだから意外と円高にならない…？いやもうわかりませんね。毎年の反省している通り年初から余計な計画はせずなるべく静かにすごしていきたいので。

来年こそ爆益したい！みなさん良いお年を！

年末特別版らしく珍しく保有銘柄コメントなんて書いたりしてみたのでそれを載せて2023年を締めたいと思います。

株式投資は、値動きのある資産（外国株式は為替変動リスクもあります。）に対し投資をするため、資産残高は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。つらい。

■当資料は、当ファンド運用担当者が運用状況を報告する手段としてブログ等の代替として作成した資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来にわたってなんら保証するものではありません。

運　用　実　績

通年持っていた銘柄で一番パフォーマンスに貢献してくれたのはオカダアイヨンです。今年はこの銘柄だけでよかった。年途中で増やしながらきているのでまるまる恩恵は受けられていませんが累進配当銘柄として来年も期待しています。

ウルトラファブリックスは1ドル300円いく！みたいな動画が出てるうちに売らないといけなかったですね。変に思い入れが出てしまうと相場の流れよりも業績の方を見てしまってホールド続けてしまうのはいつものよくない癖です。自動車向けは停滞しそうですが航空機向けの飛躍がありそうなので来年はそこに期待ですね。

ヒューリックは大型株＆インフレヘッジとして。レジデンスをやらず三菱や三井、住友などと違ってテレワーク率が低い中小企業が入居するオフィスビル主力で今の一等地にある物件の建て替えによる内部成長メインというわかりやすさと高級旅館ふふに期待です。

マクニカは半導体相場の恩恵受けながら配当もほしいなと思って持っています。買う時に野村マイクロと迷ったのですが今年に関しては設備投資系でしたね。もっとはやく半導体国策の資料を読んでおけば…。当たり前ですが初年度は生産よりも設備投資の方が恩恵ありますからね。利益は出ていますが後悔が残ります。今後については主力取り扱い商品のFPGAやASICに使われる半導体をTSMC熊本工場が生産すること、マクニカは6割国内向けでTSMC熊本も国内向けに供給するとのことなので確実に恩恵があるだろうと想定しています。

シンメンテは一度売ったのですが買い戻しました。売り上げ構成としては厨房系が最大ですが利益では空調系が最大なんですよね。この利益率の高い空調メンテにロボットを導入していくという話なので、ずっと利益率の低い状態が続いていますが利益率改善での業績ブーストがやってくるんじゃないかと思っています。思っているだけで終わるかもしれません。コロナ禍以降ボラが大きい銘柄になってしまったので一方通行な人が売買してるんでしょうか。ちょっとやめてほしいです。最大取引先がすかいらーくは猫配膳ロボ導入したり省力化に余念がないから安心です。

2024年に向けて新たに買ったのはT&Gニーズとゲオです。

T&Gニーズは今年ずっと注目していたのですがコロナ禍以降延期していた受注残の消化が終わって谷を抜けたので。企業としてはコロナ禍で無駄をそぎ落として内製化も進めて体質として強くなったところにホテルが人手不足で受けられない婚礼の受託事業とホテル事業を始めていてこれが順調です。他社が苦戦している中でも業績を伸ばしているのと、インフレで順当に生活が苦しいから結婚が増えるかもねなのと、円高になればリゾート婚の復活もあるだろうが理由ですね。結婚数の推移としてIBJのKPIを参考にしています。

ゲオは同様にインフレでの節約消費です。トレファクでもよかったんですけどね。テーマとしては消費されてしまってる感はありますが業績はまだまだ継続するんじゃないかと思っています。思い込みだけかもしれませんが。

これに加えて信用で造船系を持っています。完全なるイナゴポジ。そう長く持つつもりもないので、ほどほどのところで売れたらと思っています。

あとは米国株です。

サービスナウはやっと高値まで戻ってきてくれました。正直SaaS系の銘柄では一番値動きいいんじゃないかと思っていますが全部見ているわけではないので自信はありません。まぁ少なくともいいほうではあると思っています。様々なことができすぎて具体的にじゃあどう役に立ってるんだというのが語りにくい企業ですが導入事例を見ている限りぜひ自分の勤め先にも導入してほしいとは思っています。本当の意味でワークフローを改革するので導入は大変だとは思いますが、それゆえに一度導入したら解約しづらいんでしょうね。生成AIでもアクセンチュアとエヌビディアと提携しているのでこのあたりもなんか成果が出てきてくれるのを期待しています。確か最新バージョンはJAPANだったと思いますし、やっとインフレと人手不足時代になった日本を含め彼らの仕事が少なくなることは少し考えづらいのでこれからも安心して保有できます。

タペストリーは業績が回復してきたと思ったらカプリを買収するために多額の借り入れと自社株買い停止を決めて低迷していましたがインフレの減速と金利低下に伴ってやっと戻ってきましたね。業績を見ているとブランドごとの成績は露骨に高いブランドのほうが利益率がいいのでカプリの持つやや大衆向けのブランド買ってどうするんだという気もしますが、一部の記事だと来年はまたブランド買収合戦あるかもみたいな状況でもあるようなので早い者勝ちみたいなところがあるんでしょうか。今後中国による消費ブーストがなくなるかもしれないから米国内ウェイトの高いマイケルコースを組み入れるのは確かに悪くないのかもとかなんとか。カプリの利益率の悪さをタペストリーが復活していく過程で獲得したノウハウで改善していくという話ですぐ結果がでるわけでもないので、増額された配当を受け取りながらのんびり待つことになりそうですね。

株式投資は、値動きのある資産（外国株式は為替変動リスクもあります。）に対し投資をするため、資産残高は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。つらい。
■当資料は、当ファンド運用担当者が運用状況を報告する手段としてブログ等の代替として作成した資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来にわたってなんら保証するものではありません。